



自然の解説者

夏季号 [第 72 号] 2021 年 7 月 12 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
2425-28 櫻井昭寛方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
編集：総務企画部会

いのちの森づくり

第 10 期生 登坂 璋典

私たちは世界中を混乱に落とし入れた新型コロナウイルス禍に振り回されています。緑のインタープリター活動も延期や中止になりました。一説には新型コロナウイルスの発生源は中国武漢のマーケットの野生生物から派生したと指摘されています。その背景には 19 世紀からの人口爆発と食糧増産のための開発という自然破壊があります。資源の大量消費も要因です。環境破壊は地球規模で生物多様性を悪化させてきました。地球温暖化は自然災害（集中豪雨、土砂災害、洪水、火災、砂漠化など）を増やしています。人類に対する”開発”という美名の自然破壊のしっぺ返しと言えるでしょう。

世界はいまになって地球規模の気候変動にブレーキをかけようと対策に取り組みだしました。具体的には温暖化防止緊急対策として「脱炭素活動」が叫ばれています。それでは私たちに何ができるでしょうか？ここでは自然を再生・回復させる手段として「森づくり」の実践を見直してみましょう。

幸いに日本には短期間に森を再生した見本があります。そのひとつが 100 年で自然植生を再生した「明治神宮の森」です。世界的植物生態学者の宮脇昭横浜国立大学名誉教授は自然林再生方法を約 20 年と短期間でできる自然林復活のノウハウを考案・確立しました。その方法はその土地に古来からあった樹木（高木、亜高木、低木）をポット苗に育てます。そして約 30~40 cm に育ったポット苗を混植、密植することで樹木間の競争、共生、がまんをさせることで成長を加速することができる方法です。その実績はこの 50 年間で世界で 1,700 ヶ所、4,000 万本の森づくりを指導し、環境保全・防災減災効果が実証されています。宮脇方式の森づくりは世界に共感を呼び「小さな宮脇式森づくり」として広がっています。



2012 年から始まった東北のもりの防潮堤の植樹祭は今年が最終回となります。樹種は 26 種、13,000 本で参加者は農業高校生、企業 OB 会、自衛隊家族、地元の高齢者の皆さんでした。



校庭の樹木①

～葉も花も雄大なタイサンボク～

顧問 亀井 健一

昔、勤めた学校の庭でタイサンボク（泰山木）の花を初めて目にしたとき、不思議な感覚を覚えました。つややかな大きな葉、あでやかで肉感的な大きな白い花、そしてかぐわしい香りは、魅惑的な雰囲気を持っていました。

タイサンボクは、名から中国原産かと思いましたが、さにあらず北アメリカ中南部の原産で自生地のミシシッピ州やルイジアナ州の州花に指定されているそうです。明治初期に渡来したとされ、まだ新しい外来種です。剪定にもたえ、病虫害や公害に強く並外れて高木にはならず、扱いやすい樹木であり公園や校庭などに植えられ、庭木にも使われます。

タイサンボクにまつわるエピソードを上げてみましょう。明治 12 年、第 18 代アメリカ大統領グラント将軍は大統領退任後、夫人を伴い世界周遊の旅に出て、日本に立ち寄っています。その際、上野公園で夫人がタイサンボクを、将軍はローソンヒノキを、記念植樹をしました。上野公園の東照宮付近に「グラント将軍植樹の碑」があります。まだタイサンボクの名が定まっていなかったのか、「ぐらんとぎょくらん」と記されています。ぎょくらん（玉蘭）とはハクモクレンの中国名です。このタイサンボクは現在も樹勢旺盛ですが、ローソンヒノキの方は、残念ながら樹勢が衰え、今にも枯れそうです。

タイサンボクはモクレン科の常緑高木で、高さ 20m ほどになります。葉は互生し、厚い革質で、葉身は長さ 10~25cm の長楕円形です。葉の縁は全縁（なめらか）です。葉の表面は濃緑ですべすべした光沢があり、裏面は毛が密生しさび色です。光沢のある大きな葉が、1 年中あることも観賞の対象になります。花期は 6~7 月、枝先に直径 15~25cm の大輪の白い花が咲きます。花弁は 6 枚、萼片 3 枚ですが、萼片は白色で花弁状になっているので、花弁が 9 枚あるように見えます。ホオノキの花に似ていますが、もっと大きいです。



タイサンボクの花

和名タイサンボク（別名ダイサンボク、ハクレンボク）は、葉も花も樹形も雄大なことをたたえ、中国の名山である泰山（たいざん）にたとえたとか、大きい山にたとえたとか言われています。他に、花を盃に見立てて大盃木となり泰山木に変化したのではないかとの説もあり、和名の由来は、はっきりしていません。とはいえ、和名タイサンボク（泰山木、大山木）は、この樹木が醸し出している雰囲気をよく表しているように思えます。

<トピック>

- 神澤弥寿宏会員、櫻井昭寛副理事長が令和3年度県総合表彰（部門：林業 森林自然解説ボランティア活動）を受賞しました。
- 令和3年度「大人のための自然教室」は新型コロナウイルス感染拡大対策のため7月からの開講としました。

<活動報告>

第19回通常総会 4月18日(日) カネコ種苗ぐんまフラワーパーク 花と緑の学習館 総務企画部会

協会員114名が参加(内委任状40名)して通常総会を開催しました。関端孝雄理事長の挨拶に続いて、令和2年度事業並びに令和3年度事業案を審議し、原案どおり全会一致で承認決定されました。茂木由美理事、櫻井昭寛理事が副理事長に就任し、久保田憲司理事退任に伴う役員補充で、吉田卓一理事が選出されました。(櫻井)

会員資質向上研修1講演会「いのちの森づくり」

4月18日(日) カネコ種苗ぐんまフラワーパーク 花と緑の学習館 総務企画部会
協会員40名が参加して、昨年度延期になった登坂璋典講師の「いのちの森づくり」活動の講演会を行いました。防災のための多くの森づくりの実践例を紹介していただきました。(櫻井)

**敷島公園まつり** 4月29日(木) 秋に延期**会員資質向上研修2「赤城自然体験メニュー研修」** 5月9日(日)を8月29日(日)に延期**「大人のための自然教室」開講式** 5月16日(日)を7月17日(土)に延期**会員資質向上研修3「ネイチャーゲーム研修」** 5月29日(土)を10月16日(土)に延期**会員資質向上研修4「榛名山沼ノ原ガイド」** 6月6日(日)を11月13日(土)に延期**観音山ファミリーパーク自然観察会** 県立観音山ファミリーパーク 総務企画部会

「桜の花を楽しもう」4月3日(土) 講師：亀井健一、清水岩夫
参加者：一般9名、協会員11名。パーク内のサクラ10種の解説を聞きながら歩きました。野生種や園芸種、ソメイヨシノのクローンや寿命なども話題にのぼりました。

**「春の花」** 5月22日(土) 講師：関端孝雄、神宮開

参加者：一般17名、協会員10名。花の成り立ち、葉、茎、花の基本と花の観察のポイントを学び、フィールドで観察しました。

「共に生きる森のいきもの」 6月19日(土) 講師：吉永真、関端孝雄

参加者：一般11名、協会員9名。雨天のため室内での昆虫の話や生態系についての話をしました。(大島)

森林整備 インプリの森部会

4月24日(土) 参加者13名。今年度最初の作業のため、安全祈願、森の状況確認、機材の点検を実施した後、インプリの森入口周辺、西側広葉樹の森の刈払い作業を行いました。5月8日(土)、22日(土)、6月12日(土)は、県の新型コロナ警戒度が「4」に引き上げられ、また前橋市に「まん延防止等重点措置」が適用されたため作業自粛としました。(酒井)



<協会員の声>

太田金山自然観察会**第18期生 永田 まり子**

ご近所の阿部さん(16期生)がリーダーとなり、金山で自主研自然観察会を行う事になりました。まずは下見と、昨年10月頃2人でタイムスケジュールを組みながら歩いた。今年になり、2月28日、3月14日、4月4日と下見会を重ねた。

2月は大谷さん清水さん他6名でまだ春浅い金山へ。2週間後、阿部さん荒木さんと3人で、春の訪れを感じながら、すみれが咲く金山を歩き、3週間後には、アオダモが満開になり、ウワミズザクラも咲き始めた。そして4月14日観察会当日、協会員13名で9時半から開始。スタッフは、樹木や草花は大谷さん荒木さん、歴史は阿部さん担当、私はタイムキーパーを担当しました。

キランソウが元気に、ハウチャクソウは可憐に、ウワミズザクラは満開。短期間に幾度も同じ山を歩き、とても良い自然観察になりました。

・・・と書いたが、実はわからないことばかり。写真とメモを見比べる日々。花で覚えたつもりでも、花も葉もなく、木だけがそこにあつたら、もう全く判らない。インプリハイキング部で毎回清水さん荒木さん達に色々教えて頂くが、直ぐにダム決壊。そのうち判るようになってと言っておきながらダメかも・・・!? 心萎えつつではありますが、先輩方これからもご指導よろしくお願ひ申し上げます。精進致します。



ウワミズザクラ

緑の窓 未だ姿を見せない「ウラジロガシ」「フユザンショウ」を求めて

第16期生 清水 岩夫



一昨年から山歩きをしながら樹木観察を楽しんでいます。そんな中、なかなかお目にかかれない「ウラジロガシ」と「フユザンショウ」に興味を持ちました。しかしなかなか出会えなく、そうだ！林業試験場に行けばあるかも知れない…と考え、榛東村に向かったところ天の助けか！ありました。「ウラジロガシ」です。いずれ野山で行き会った時、シラカシと間違わない様にその特徴を掴んでおきました。

他方「フユザンショウ」との出会いは、ある時偶然訪れました。ネット検索していたところ、…出流山には「ウラジロガシ」「フユザンショウ」が自生し、暖地性植物の本邦内陸部の北限…なる記事を見つけ早速出掛けてみました。登山道を登り、途中踏み跡が消えたので急斜面をいくと”何といるではありませんか！”またしても偶然です。その後、登山道に戻り暫く散策しましたが見当たりません、僅かな箇所群生していたようです。その先の登山道にはこれまた「ウラジロガシ」だらけ！実に自分にとっては貴重な体験を伴う山歩きでした。



フユザンショウ

豆知識

雑草の話 21 ヒメムカシヨモギ

理事長 関端 孝雄

土手下の畑の中には耕作が行われていない場所があり、そこには背丈の大きい雑草が何種類も繁茂していて、とても入り込める状態ではありません。セイタカアワダチソウ、オオマツヨイグサ、ヒメムカシヨモギ、コセンダングサなどで、いずれも外来種で成長が旺盛です。

ヒメムカシヨモギ(姫昔蓬、キク科、イズハハコ属)は、北米原産で明治の中頃帰化し道路沿いの空き地や荒地に繁茂する大型の越年草で、鉄道草とか明治草などと云われました。茎はまっすぐに伸びて丈が2mにもなり粗い毛を散生します。茎葉は黄緑色の線形で縁に長い毛とまばらな鋸歯があり、茎を取り巻くように密に互生(図1)します。葉を触るとざらざらした感じ(図2)。秋、茎の上部に円錐状に小さな頭花を多数付け、花序は扇を少し開いた形に見えます。総苞は俵型で、筒状花の周囲に白い舌状花を並べ(図3)、そう果には冠毛を着け風に舞って遠方へ広がります。



ヒメムカシヨモギ



図2. 葉

葉は茎に着きますが、一般には着け方に幾つかの型があります。それは対生、互生、輪生などがあり、つけ方を「葉序」と云います。詳しく見るといろいろな形が見られますが、一定の法則があるようです。ヒメムカシヨモギは茎をらせん状に取り巻くような互生葉序ですので、らせん葉序とも呼ばれます。茎の表面を下から葉の着いている点を順に上方へ追って行くと、最初の葉(基準の葉)かららせん状に巻いて基準の葉の真上に着く葉に注目します。その間、らせんは何回で、

葉は何枚であるかを見ます。例えば、茎を2回まわるうちに葉を5枚着け6枚目の葉が基準の葉の真上に来たら、2/5葉序と云います。ジャガイモの芋は根ではなく茎(塊茎)と云います。では調べてみましょう。なるほど、芋の窪みを上記と同様に数えてみると、2/5葉序になっています。ヒメムカシヨモギを数えてみると、3回まわるうちに8枚着け9枚目が基準の葉の真上に来ます。ですから3/8葉序です。茎は一周で360度ですから隣同士の葉がなす角度は135度(360×3÷8)です。この角度を「開度」と云います。では、互生ではなく、例えば十文字対生はどうでしょう。1回転で3枚目が基準の葉と重なりますので1/2葉序で、開度は180度となります。葉は、極力受光出来る量を増加させるために重ならないよう茎に着かせます。そして、受光面積を広く、多数茎に着けるために薄く軽量にして、その上で形をそれぞれ特有のものにしています。



図1. 茎

ヒメムカシヨモギに形状がとても良く似ているものにオオアレチノギク(大荒地野菊、キク科、イズハハコ属)があります。こちらは南米原産ですが、茎は前者と同様2mにもなり、開出した軟毛が多数生えます。茎葉は狭披針形で両面に短毛が密生し、それ故葉・茎とも灰緑色に見えます。



図4. オオアレチノギクの葉

葉を触るとピロードのような滑らかさ(図4)があります。また、葉腋には副次的に小型の葉が見られます。茎の上部に先が尖る三角形の円錐花序には頭花を多数つけます。総苞は下方が膨らみのある徳利型、淡褐色の舌状花は花卉が短く総苞に隠れていて外からほとんど見えない状態。そう果には冠毛があり、ヒメムカシヨモギと同様に風に乗って荒地に侵入します。在来種の植物を駆逐する恐れのある要注意外来生物の一つです。



図3. 花

在来種の植物を駆逐する恐れのある要注意外来生物の一つです。

野鳥観察でポイントとなることの一つに、観察した鳥の情報を人にどのように伝えるかというのがあります。例えば「小鳥を見た、羽の色が灰色だった。何の鳥だろう」と話があったとします。これには重要な要素がいくつか抜けています。「いつ、どこで、どんな大きさで、どのような形、何羽いたか、どのように行動していたか」などです。この中で「どんな大きさで」というのがありますが、どのように表現していいか迷います。そこで日頃、よく見ている鳥を「ものさし」がわりにします。「スズメくらいだった」これで大きさが伝わります。スズメ、ムクドリ、ハト、カラスなどよく見る鳥を「ものさし鳥」と言ったりします。

「スズメは厄介者」

この「ものさし鳥」ほど分からない鳥もいません。身近だからこそ分からないのです。例えば(写真1)はスズメでしょうか。これはスズメ属の鳥ですがスズメではありません。この写真は尾瀬ヶ原で撮影しました。在来種でニューナイスズメ(入内雀)のオスです。スズメと違い雌雄が別模様、別色です。インドからアジアにかけて生息します。スズメより小さな範囲にスズメと棲みわけ、長い距離ではありませんが旅鳥です。日本では夏は北日本で繁殖し、冬は越冬の為に暖地へ移動します。別名はシナモンスパロー(Cinnamon Sparrow)と言います。外観の特徴は頬に黒い模様がなく、頭部と背面はスズメよりもあざやかな栗色をしています。メスは目の上に白い斑らがあり、オスに似ていますが目立たない色と違う模様をしています。スズメと違い民家近くに生息せず森や林を好みます。しかし秋に田んぼにやってきて米を食べるので狩猟鳥として扱われてきました。在来種のスズメ(雀)(写真2)は外観の特徴は頬に黒い模様が雌雄が同模様同色です。英語でツリースパロー(Tree Sparrow)と呼ばれます。ヨーロッパを含めユーラシア大陸全体に分布していますが、インドにはいません。また最近になり100km以上の長い距離を移動する群れと移動しない群れがあることがわかってきました。スズメも米を食べますがそれより虫を食べる効果の方が高いので米農家にとっては「益鳥」の面が大きいとも言われます。ニューナイスズメが多く米を食べるのでスズメも同一視され、「舌切り雀」でおなじみの厄介者になったのです。ただ現在ではスズメもニューナイスズメの数が減少し、米の食害はあまりありません。スズメとニューナイスズメはこのように似て非なるものです。日本にたった2種類しかいないスズメ属の鳥の生態は知られていないことが多いのです。

「スズメの生態は絵本でわかる」

ではどのようにその生態に迫ればいいのかのでしょうか。専門書を読むには面倒です。また近頃には「スズメの謎」「こぼんスズメのしぐさ」「こぼんのスズメと野鳥仲間」など一般書籍も多く出回るようになりました。しかし、私がお勧めしたいのは「絵本」や「児童書」です。例えばキンダーブックのしぜん「スズメ」唐沢孝一/内藤貞夫共著 フレーベル館(写真3)は小さな子供と一緒に読んで楽しく、生態もよくわかり、自然と頭に入る驚きの『生態入門書』なのです。内容の一例を挙げますと「世界には15種類のスズメがいますが日本にいるのは2種類」「スズメは3つより卵が少ないと温めません」などです。しかもこういう本はブックオフなどの児童書コーナーで安く売られているケースが多いのです。

「入門書は児童書にあり」というのが野鳥の生態に迫る近道なんです。



写真1. これはスズメの雌？



写真2. これもスズメの雄？



写真3. 生態入門書

<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
7月11日(日)	自然体験事業「夏の赤城山の自然観察」	赤城山
7月17日(土)	観音山ファミリーパーク子供自然観察会	県立観音山ファミリーパーク
7月17日(土)	「大人のための自然教室」	憩いの森 森林学習センター
7月18日(日)	前橋市委託「森を歩いていきものを見つけよう、クラフトも楽しもう」	おおさる山乃家
7月25日(日)	自然体験事業「木工」	ふれあいの森 木の家
8月1日(日)	前橋市委託「川に入って生き物を調べよう、水鉄砲を作って遊ぼう」	おおさる山乃家
8月8日(日)	会員資質向上研修「シカ食害防止ネット巻き」	赤城山
8月10日(火)	自然体験事業「赤城の自然を楽しもう」	赤城山
8月21日(土)	観音山ファミリーパーク自然観察会	県立観音山ファミリーパーク
7月10日(土) 24日(土)、8月21日(土) 28日(土)、9月11日(土) 25日(土)		森林整備 インプリの森

<編集後記>この度、伐倒木造林(チェーンソー作業)労働安全衛生特別教育、座学及び実技講習を3日間受講して修了証を戴いてきました。良い体験が出来ました。(六本木)